

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

所在	練馬区関町北 4-35-14
園名	アスク関町北保育園

1. 活動のテーマ

声

<テーマの設定理由>

日頃から季節の歌をうたったり聞いたりしていることもあり、歌に親しむ機会が多い。また、日々の保育の中で声の大きさを場所や場面ごとに自分たちで考えていけるよう繰り返し伝えている。

最も身近なコミュニケーションツールであり、最も簡単な楽器にもなりうる声について、声の出し方や発声のしくみ、友だちとの関りにおける声の強弱、歌う時の声の出し方などさらに一步踏み込んだ探究活動につなげるためこのテーマに設定しました。

2. 活動スケジュール

6月から1月まで行った。月に一回専任講師を招致し、子どもたちの興味、関心を引き出しより深く探究活動ができるようにした。音の鳴る仕組みを考え、手作り楽器を使って鳴らしてみたり、様々な楽器に触れてみたりした。

4月～8月 : 声について、声帯とは何か、声以外の伝達ツールはあるかを考える

9月～12月 : 楽器に触れ、音の違いや音の仕組みについて考える

1月 : リズムに合わせて楽器を奏で、音の違いに気付く
手話を使った表現方法を知る

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

紙、色鉛筆 …イメージして声帯作り

パーテーション…隠れて声遊び

イラストカード…ジェスチャーゲーム

動物の声の音源…声色クイズ

容器、水、玩具…楽器作り、音の違いを知る

ハンドベル (CBR-20T)…鳴らして音の違い調べ

ハンドベルカバー(CBR-20T カバー)…ハンドベルをいい状態で保管する為

4. 探究活動の実践

【3歳児実施分】

問いを考える：

普段何気なく話をしているが、話すときに使う“声”とはどんなものなのかを考えてみた。声の出る仕組みや声の大きさに変化をつけるためにはどうするのかを、音に着目して楽器を使いながら探究した。楽器にとっても興味を持っていたので自分だけのオリジナル楽器を作り、演奏のやり方に変化をつけることで声を出すときの大きさの変化にも通じるものがあるのかを考えた。

探究活動の様子：

声の出るしくみについて図鑑で調べてみた。絵で見たり読み上げて聞いたりするだけでは理解できていない姿が多かったので、紙に息を吹きかけて揺れる様子が声を出す“声帯”だと説明した。目に見える物ではないこと、声を出すことに特別な意識を向けているわけではないことから「声とはなんだろう」と子どもたちの疑問がさらに深まった。

声を出すことに意識を持てるように、グループごとに絵カードを用いてジェスチャーゲームを行った。大きな動物を表すときは低くて大きな声に、小動物を表すときには高くて優しい声に変化する姿が見られた。

次にタライを使って声帯の働きを見える化した。ポリ袋をかぶせ、その上に塩を置いて塩を動かす実験を行った。タライのそばで大きな声を出すと塩が揺れて動いた。声が出ていることに驚く姿がみられた。塩ではなくタンバリンや鈴など楽器を置くと音はなるのかも合わせて実験した。結果、楽器は鳴らず不思議に感じている子が多かった。

声で塩は動いたが、楽器は鳴らない。ではどうすれば楽器の音を出せるのかそれぞれ考え、楽器に触れてみた。持ち方や使い方により音が違うことに気付いていた。

楽器への興味が広がったので、身近な物を使って楽器作りに挑戦した。紙コップを2つ繋げ、中に木の実やペットボトルの蓋を入れてマラカスを作る。中に入れるパーツの数や種類によって音の大きさや高さに差が出ることに気付いていた。中身を変えると音が変わるが、楽器の使い方でも差は出るのか疑問を持つ子がいた。大きく力いっぱいマラカスを振った時と、小さく小刻みに振った時とで大きな差があることに気付いていた。

発声も同じく、大きく力いっぱい話すと大きな強い声になり、小さく優しく話すと同じような声になることに気付いていた。

ふりかえり(保育士の気付き)：

『声』がテーマではあったが、子どもたちが楽器にとっても興味を持っていたので子どもたちの意欲や主体性を大切に、楽器を取り入れて探究していった。

興味のあるものだったので3歳児でも意見や疑問がたくさん生まれ、グループごとに「やってみよう」「これはどうかな」と考え実践していた。

楽器を鳴らすときと声を出すときは基本的には同じ意識を持つことに気付き、大きい音を

出す、大きい声を出す場面、小さい音を出す、小さい声で話す場面と自分たちで考えていけるよう引き続き探究を続けていく。

【4 歳児実施分】

問いを考える：

“声とは？”と問いかけると、当たり前前の日常の中で発声しているので「なんだろう？」と疑問を持つ子が多かった。声の出る仕組みについて説明を受けてもピンときてない子がいたので、身近な物を使って音を鳴らせる楽器作りを行い、音が出るしくみについて探究した。声や音の出る仕組みから、声の大きさについて考えていった。

探究活動の様子：

声を出すには、体の中にある“声帯”が働いてくれている、と図鑑で調べ教えてもらい、声帯の仕組みをみんなで考えてみた。声を発する時は目では見えない音の振動が起きていることを、実際にどんなものなのか実験してイメージできるようにした。紙に息を吹きかけ、揺れる動きが声帯の動きと同じだと知ったが、目に見えないものでイメージを広げたり理解したりするのは難しいと感じていた。

次にタライにポリ袋をかぶせその上に塩を置いた。タライに触れずに塩を動かせるのか考えてみた。「息を吹きかけたら動く」、「手で触れないと動かない」と等と予想していたが、実際はタライの近くで声を発するだけで塩は動き、驚いていた。

“一人一人の声はなぜ違う音なのか”と疑問を持つ子がいたため、紙コップを使って楽器を作ってみた。同じ大きさの紙コップに同じ大きさの玩具を入れて振ってみたが、音の高さに違いがあることに気付いた。楽器の音の違いと声の違いが結びついたようで、「同じ楽器でも音が違うのだからみんなの声がちがうんだね」と納得していた。手作り楽器の中身を変えたり、容器の大きさや素材を変えてみたりしながら様々な楽器の音色を楽しんでいた。

本物の楽器に触れたいとの声が上がったこともあり、様々な楽器に触れてみた。楽器の仕組みを考えながら鳴らしたことで、「この楽器は優しい音」、「この楽器は強い音」など、たくさんの印象を持ち、自分が考えたことをグループの友だちと共有していた。

声の仕組みや音の違いを理解し、声の大きさについて再度考えてみた。大きい声だと相手にどのような印象を与えるのか、小さい声だと伝わるのかグループごとに話し合った。次に、歌の歌詞を書き出して大きい声で歌うところ、小さい声で歌うところ、とグループで歌い方を考え歌詞の横に大きい声のイラスト、小さい声のイラストを添えていった。実際に歌いながら「ここはやっぱり優しく歌ってみよう」「ここは元気に歌おう」とそれぞれ意見が出た。実際に歌い方を工夫しながらグループごとに一曲歌い、聞き手の印象を伝え合った。

ふりかえり(保育士の気付き)：

声の仕組み、音の鳴る仕組みから自分たちで大きさやトーンを工夫して1つの歌をアレンジしていた。意見がぶつかると「1回歌ってみようよ」と自分たちで決め、話し合っていた。

た。大きい声で歌うところ、優しく歌うところと歌い方も意識して工夫していた。歌だけではなく、日常の中でも“声”は発していくものなので場面に合ったボリュームやトーンに気付いていけるようにしていく。

【5歳児実施分】

問いを考える：

“声とは？”と子どもたちに問いかけてみると「話をするときに発するもの」、「歌を歌うときに発するもの」とイメージしている子が多かった。コミュニケーションツールとしてとらえている子が多かったので、“声を発さなくても思いを相手に伝えられるのか”、“歌を歌う時はどうするのか”を考えてみた。

声を発するだけでなく聞く大切さにも気付いていたので、様々な楽器を用いて聞く力にも注目した。楽器によって音の違いはあるのか、鳴らし方によって音の違いはあるのかを探究していった。音の違いから声の強弱へ繋げていき、場面に合った大きさ、出し方について考えた。

探究活動の様子：

『声は声帯から発する』と図鑑を見て知識として覚えていたが、実際に声帯はどんなものなのか理解していない子が多かった。声帯を紙に見立てて、息を吹きかけて紙の揺れを観察した。紙の揺れが声帯と同じ動きをしていると知り、どんな色でどんな形をしているのかイメージを絵で表現してみた。目に見えないものを想像することに難しさを感じている子が多かった。

声をコミュニケーションツールの一つとしてとらえている子が多かったので、声が使えなくなるとどうなるのか疑問の声が上がった。声を出さずに相手に伝えるにはどうすればいいのかをグループごとに考え、考えた方法で伝えていった。口パクで伝えようとするグループがほとんどだったが、口パクだと相手には伝わりにくかった様子が見られた。

次に言葉ではなく音だけでイメージを共有し、コミュニケーションをとれるのか考えてみた。動物の鳴き声クイズとして実際に鳴き声を出していったが、子どもが自主的にクイズを出していき楽しく答えていた。同じ鳴き声でもトーンや強弱によって印象は変わってくるようで“今の声は悲しそう”、“嬉しそうな声だった”と積極的に答えていた。同じ鳴き声でもやり方によっては印象が変わることに気づき、「楽器ではどうなのか？」と疑問が生まれた。

同じ形の楽器、ハンドベルを鳴らしてみると、音の高さが違うことに気付いた。鳴らしていくうちに“楽器の音色で言葉を伝えることができるのか”、“コミュニケーションツールにはなるのか”、と疑問を持つ子の声で、音色で思いを伝えるゲームをグループごとに行った。高い音は嬉しい気持ち、低い音は強い気持ちと受け取る子が多かった。

楽器への興味を広げ、もっと様々なもので音を出してみたいと意欲的だったので大きさの異なる容器に水や小物をいれて楽器作りに挑戦した。容器の中身によって音の違いはどうなるのか、それぞれ予想して取り組んでいた。予想や結果をグループごとに共有し合うことで自分の考える相手の考えを聞くこともスムーズに行っていた。

音の出る仕組みや聞く大切さは理解している子が多かったが、「声を出さずに歌を歌うに

はどうすればいいのか」と疑問が生まれた。相手に伝えるコミュニケーションのひとつとして手話があることを知り、歌詞を手話で表現すれば声がなくとも歌を相手に伝えられることに気づき興味を持った。

グループごとに考え、実践し、振り返りをしたことで普段あまり意見を言わない子もアイデアを出せていた。

ふりかえり(保育士の気付き)：

声とは声帯から発する、と図鑑で調べたりイメージしやすいように実験したりすることで理解できている子もいたが、目に見えないもののためイメージを広げるのが難しそうだった。そこで様々な楽器へと興味を広げ、音の出る仕組みや鳴らし肩を理解し、音色や大きさを工夫して楽器を演奏することができ楽しく活動できていた。音を鳴らすことでも聞き方によってそれぞれのとらえ方に変化が見られたことで友だち同士の言葉を聞く大切さに気付いていた。

5. 活動の様子が分かる写真

3 歳児



4 歳児



5 歳児



とうきょう すくわくプログラム活動報告書

所在	練馬区関町北 4-35-14
園名	アスク関町北保育園

1. 活動のテーマ

動作について

<テーマの設定理由>

自園では鉄棒や平均台など様々な運動器具があり、日ごろから保育の一貫として繰り返し活動を行っていた。同じ動きを毎回行うのではなく、1つ1つの動作を意識しながらより上手く技を行う。よりきれいに見えるのか探求心を持って行動できるよう、このテーマに設定しました。

2. 活動スケジュール

6月から1月まで行った。月に一回体操の専任講師を招致し様々な運動器具を用いて探究活動を行えるようにした。グループごとに実践と観察を相互に行いながら運動器具を使う際のひとつひとつの動作を確認し伸ばす、曲げる等を意識して行えるようにした。見え方、見せ方を考え、話し合い教え合っていた。

6月～8月 動作の種類違いを考える(跳ぶ動作：跳び箱、立ち幅跳び、9マスゲーム等)

9月～12月 複数の動作を行う動きを考える、ルールを考えてゲームを作る(縄跳び、ボール、創作集団ゲーム)

1月 運動動作中の意識の有無の違いを動画に撮り、見比べて改善点や伸びたポイントを考え教え合う

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

動物の絵本、イラスト写真…ジャンプや走りが得意な動物や、その動作をイメージしやすくする
トランポリン、スプリングマット…静止した状態でのバランス感覚、ジャンプを組み合わせて高く飛
跳び箱…どんな動作を行いながら使うのか考える
鉄棒…技の完成度を高められるように互いに見てアドバイスをし合う
マット…回るなどの動作だけではなく、鉄棒や跳び箱を使用する際の安全対策としても使用
大縄、短縄…跳ぶ、まわす等複数の動作を同時に行えるようにやり方を考える
プロジェクター、プロジェクタースクリーン…自身の動作や技を行っている写真や動画を確認する

4. 探究活動の実践

【3歳児実施分】

問いを考える：

歩く、跳ぶ、叩く、走る等どんな動作を知っているかを問いかけ、子どもたちが思いつく動作を書き出した。その後、「跳ぶ」「叩く」等動作名を声に出しながら実際に一つ一つの動作を行った。跳ぶ際に膝を曲げる等自分が考えていた動作と友だちが行っている動作に差があることに気付いた。同じ名称の動作でも、やり方によって結果に差が出ることから運動器具を用いて活動する際、どんなことに意識を向けて動作を行うとより良い結果になるのかを考えていった。

探究活動の様子：

子どもたちが挙げた動作を、名称を言いながらその場で行って見た。言葉と動きを連動させることに苦戦している姿も見られた。

鉄棒を使って動作を確認しながら技を行って見てから『腕を伸ばす』、『肘を曲げる』など一つ一つの動作を意識しながら行ってみるとその様子を見ていた他グループの子から技の上達を認められ、嬉しそうにしていた。

速く走るためにはどんな動作を意識するのも考え、「腕を振ると速く走れるよ」と友だち同士で教え合っていた。『腕を振る』、『足を大きく踏み出す』と意見が出たことを意

識して行うことで、走りやすさを感じている子が多かった。

ボールを用いた活動では、まずボールに触れてみた。柔らかい、跳ねるなどボールの特性に気付いていた。次に投げ方を工夫することでより遠くまでボールを投げることが出来ると気づき、腕の曲げ伸ばしや肩のまわし方で変化を加え遠くまでボールを投げることが楽しんだ。

鉄棒を用いた活動では、1人ずつ順番にできる技をやってみてから何が大切だったのかを考え、動作を意識して再度行った。友だち同士で良かったところを伝え合い、アドバイスを合せて上達できるようにしていった。

平均台の活動では、保育者の手を取って渡っていた子や怖がってなかなか進めない子もいた。登る時は何に気をつければいいのか、渡るときはどんなコツがあるのかを考えた。遊びの中で床にテープを貼りその上を歩く、一本橋を歩く、と段階を踏んで平均台へと進めたことで恐怖心はなくなりバランスをとるコツをつかみ上達へと繋がられていた。

縄を用いた活動では、縄を引く、結ぶ、ひきずるなど様々な使い方を試してみた。自分では思いつかない縄の使い方を、友だちの姿を見て学ぶことで気づき、模倣していき使い方ややり方を広げていった。一人で使うだけでなく、友だちの縄とつなげて電車や車に見立ててごっこ遊びやなりきり遊びを行う姿も見られた。

最後に、これまでのまとめとしてプロジェクターにこれまでの活動中の写真や動画を映して振り返りを行った。振り返った中で意識を向ける動作を思い出していた。どうすればいいのか問いかけることで、自信をもって答えていた。

ふりかえり(保育士の気づき)：

動作の種類を聞くと最初は簡単な単語しか出てこなかったが、実際にその動作を行ったことでイメージが広がり“こんな動作もあった”と友だちや保育者に教える姿が見られた。たくさん動作をイメージできたことで、意欲的にどんどんやってみようとしていて多くの器具を用いて活動が出来た。

一つ一つの動作は単純でも、意識を向けるか向けないかで見え方が180度変わってくるのには子どもだけでなく保育者目線でも驚いた。出来たことを友だちに教えることで協調性や思いやりの気持ちにも繋がっていた。今後も継続して様々な運動遊びを保育に取り入れていきたい。

【4 歳児実施分】

問いを考える：

運動遊びが大好きで、日頃から様々な運動器具を用いて体を動かしている。鉄棒で上手に技を決めた後に“着地をカッコ良くするにはどうすればいいのか”と疑問を持ったことから見え方に着目した。鉄棒だけではなく、様々な器具を用いて様々な運動遊びを行う中で、自分で意識した所を見ている相手にはどう映るのか、どう感じるのかの疑問を持ち、話し合いや実践を重ねていった。

探究活動の様子：

初めに思い浮かぶ限りの動作を言い合い、実際に行ってみた。次々と動作を行うことで友だちの様子を見て思いつき、発信していく、を繰り返していた。

跳び箱を用いた活動では、一度跳んでみて良かったところを考え伝え合い、『足を伸ばす』『着地をなるべく音を出さずに行う』と出た意見を実行した。

短縄を用いた活動では、自信がある子とそうでない子とで二分化していた。どうすれば跳べるのか考え“またぐ”、“まわす”の動作を丁寧に行った。自信がない子にアドバイスをしながら短縄を跳べるように友だち同士で考える姿が多く見られた。タイミングを図って跳ぶことで、リズムよく跳べることに気付いていた。

ボールを用いた活動では、より遠くに投げるにはどうすればいいのかを考えた。『強い力で飛ばす』『腕を大きく振る』と出た意見を実践した。ボールの大きさを変えても行う動作は変わらないことに気づいたが、ボールを的に当てる際は小さいボールよりも大きいボールの方が当たりやすい事を、実際に大きさ比較をしながら行ったことで気付いていた。ボールの大きさだけではなく、的に置く距離や高さに変化をつけることで投げ方にも変化が見られるのかも考えた。的に場所が遠いときは投げる力をより強くする、高い場所にある時は当てにくい等新しい発見がたくさんあり、ここでも友だち同士で気付いたことや考えたことを教え合っていた。ボールを投げることにフォーカスを置き、ボールを投げる動作を使ったゲームはどんなものがあるのかを考えてみた。爆弾ゲームや中当て、ドッジボールなどたくさんの遊びが出たので保育の中で取り入れて楽しんだ。

マットを使った活動では、前転に挑戦した。まずマットの上をまっすぐ転がってみた。マットの上から横にズレ、落ちてしまう姿が多く見られた。まっすぐ転がることは簡単だと思っても実際にやってみることで難しさややりがいを感じる子が多かった。どうすればまっすぐ転がれるのか、考えて試行錯誤したことで『体のバランスを意識を向けてみる』という答えが出た。それを踏まえて前転へとステップアップし、どうすれば見え方がキレイなのかを考え、見せ合い、感想を伝え合った。最後には自信を持って前転ができるようになっていた。

最後にこれまでの振り返りとして今まで行った運動遊びの写真や動画をプロジェクターで映して自分たちの動作を振り返った。好きな動作とその理由をグループごとに発表した。

ふりかえり(保育士の気付き)：

子どもたちが主体的に互いの活動の様子を見て、感じた思いを伝え合っていた。良いことだけでなくアドバイスを伝えられ。素直に受け入れられない姿も見られたが、進んで遊びの中で運動遊びを取り入れ、繰り返し行ったことで自信を持って披露出来るようになっていた。出来た達成感を味わい、努力したことを認め合っていたのでとてもいい経験になったと感じた。伝える側も相手の気持ちを考えながら、良いところを認めていけていたのが友だち同士の関わりに良い影響を与えていた。今後も運動遊びを継続して行っていき、互いに認め合いながら考えて実践して、振り返っていく活動を増やしていきたい。

【5 歳児実施分】

問いを考える：

運動あそびよりも製作遊びを好んで行う子が多いので、無理なく楽しみながら体を動かしていくにはどうすれば良いのか子どもたちに問いを投げかけた。「好きなことを増やす」という意見が出たので、運動遊びの良いこと、楽しいことを広げていき、子どもたちが進んで活動できるようにしていった。好きなことは十人十色だが、苦手意識を少しでも減らせるように様々な用具、器具に触れて特異なことを増やしていけるようにした。また、就学を見越して運動遊びの中での体の動かし方や姿勢維持のためのバランス感覚の獲得に繋がられるようにした。運動そのものの楽しさとは何か、それを相手にどう伝えていくのか。苦手意識の軽減に繋がる事とはどんなことなのかを考えながら行った。

探究活動の様子：

初めに動作とは何かを考え、日常の中で使っている動作は何があるのかを考え、実際に行ってみた。跳ぶ動作一つでも、小刻みに何度も跳ぶ、大きく1回跳ぶ等別の子が行うと同じ名称の動作でも別の動きになることに気付いた。動作名を書き出し、1つずつ確認しながら行ったことで、考える時間と実行する時間とでメリハリをつけ、楽しんで行っていた。

跳ぶ動作を行うゲームとして9マス鬼ごっこを行う。マスの大きさに合わせて跳ぶにはどうすれば良いのか、ゲームなので友だちとタイミングを併せて行うにはどうしたらいいのか、ゲームの中で他にどのような動作が必要か考えてみた。相手の動きを見てジャンプする方向を考え、両手でバランスを取りながら友だちとの距離を保っていた。一定のカウントの中でジャンプをして移動するため、瞬時に体の向きや力の入れ方を変える姿が見られた。友だちが行っている様子を見て、体のどの部位を動かしているのか考えた。膝が曲がっていることに気づき、同じようにやってみたことでより細かく動作を区切れるようになった。友だちの姿を客観的に見ることで身体全体の部位に注目できた。

次に、跳ぶ動作を応用して遠くへ飛ぶにはどうすれば良いのかを考え、立ち幅跳びを行い、自分が飛んだ位置にテープで印をつけた。一度跳んでみてからどうすればより遠くへ跳べるのかをグループごとに考えた。「手を振っていた」、「膝が曲がっていた」、「顔を前に出していた」と見て印象に残った友だちの姿を伝え合い、出た意見を意識して2回目を行った。2回目はグループごとに行ったこともあり、友だち同士で声を掛け合いすぐに理解して取り組んでいた。

カラーボールを使った活動では、『危険なことはしない』のルールのみを共有し、自分たちで楽しめる活動を考えてみるようにした。投げる、転がす、バウンドさせる等ボールの使い方がたくさんあることに気づき、自分たちでルールを決めながら活動していた。クラス全体で行わず、気の合う友だち同士で声をかけ合い行っていたので「こうしてみよう」とたくさん展開して遊びを進められていた。自分たちで考えた遊びなのでとても集中して

遊び込めていた。

カラーボールに限らず、園内にある器具、用具を用いてグループごとにあり字なるゲームを考えてみた。考えたグループのメンバーがみんなにルール説明を行い、実際に行ってみて他に必要なルールを加えたり確認したりした。友だちの声掛けに意見を出し、みんなが楽しめるゲームを皆で考え行った。互いの意見を尊重する姿がみられた。

大縄の活動では、大縄数本を使い『上下真ん中』のゲームを行った。最初は大縄 1 本で行ったが、子どもたちから「もう 1 本増やしてみよう」と声があがり自分たちで主体的に活動を進める姿が見られた。普段の遊びの中で行っている活動を子どもたちが自分でルールを増やし実践していたので、より積極的に取り組む姿が見られた。

短縄を使った活動では、まず縄を跳ぶためにはどんな動作をしているのかを考えてみた。

『まわす』、『引きずる』、『跳ぶ』と 3 つの動作を行っていることに気付いた。腕を伸ばすことで足に引っ掛かりにくくなることに気付く友だちに教える姿も見られた。縄跳びの場所を 3 コースに分けたことで得意な子、苦手意識を持つ子、それぞれが自分のペースで活動することが出来ていた。

最後にまとめとしてプロジェクターでこれまで行ってきた動作を振り返った。グループに分かれて自分たちの好きな動作を、器具や道具を使って発表した。好きな運動遊びから動作を決め、実際に行ってみることで見ている子どもたちも動作について考え、「他にもこんな動作があったね」と気付く、発信していた。

ふりかえり(保育士の気付き)：

身体を動かすことに苦手意識を持つ子も、友だちと一緒にいたり、友だちと協力したりすることで楽しめる気持ちが芽生えたように感じた。楽しいことには“もっとやりたい”と意欲が出てくるので、最初に子どもたちから出た『好きなことを増やす』ということにも結びついてきたように感じた。運動は、友だちと協力し合うことで楽しいことなのだと思いつき苦手意識も減って自分から意欲的に“○○やろうよ”と声をかけ誘い合う子も増えてきた。楽しく行いながら好きなことを増やしていけるように今後も行っていきたい。

5. 活動の様子が分かる写真

3 歳児



4 歳児



5 歳児

